Elytra, *Tokyo*, **16** (2): 133–136, November 15, 1988

ミヤマアカコメツキの形態について

大　平　仁　夫

Notes on the Morphological Structure of *Ampedus alticola* (Coleoptera, Elateridae) from Japan

Hitoo ÔHIRA

National Institute for Physiological Sciences,
Okazaki, 444 Japan

Abstract *Ampedus alticola* SILFVERBERG, 1977, was originally described from Nikko, Honshu, by G. LEWIS in 1894 under the name of *Elater montanus* (Annls. Mag. nat. Hist., (6), **13**: 36). Some important structure of the rare species is examined by SEM-images as shown in Fig. 1 to facilitate its recognition.

ミヤマアカコメツキ *Ampedus alticola* SILFVERBERG, 1977 は，原記載など古い記録では *Elater montanus* LEWIS または *Ampedus montanus* (LEWIS) という学名で呼ばれていた，G. LEWIS (1894) によって記載された種であるが，その後 SILFVERBERG (1977) の研究によって，*montanus* の種小名は SCOPOLI (1763) によって先取されていることが判明したので，同氏により上記のように改められたものである．

本種は，MIWA (1934) のモノグラフに G. LEWIS 採集 (Chiuzenji, 20. VIII. 1881) の個体 (図は Nikko 産になっている) が示されたのち，主として本州中部以北の山岳地で若干の分布記録があり，図示されたものもある．しかし，その大部分は誤同定らしく，実体を正確に示したものはほとんどないように思われる．

最近になって，大平 (1973) により基準標本の検討がなされ，その実体が明らかになったが，本州には本種の類似種がほかにも分布するので，同定は簡単ではない．筆者は本種の形態について少し詳しく調査することができたので，ここにその概要を報告したいと思う．

本文を草するにあたり，標本について支援をいただいた東京都の鈴木 亙博士，北海道の佐々木恵一氏に心からお礼を申し上げる．

分布について

本種は山地性の種で，主として本州の中部山岳地帯から関東山岳地帯以北の本州，北海道にかけて分布しているようであるが，どこでも個体数は少ない．近畿地方では，平松 (1977) による和歌山県の護摩ノ壇山 (1♂, 26. V. 1974) からの記録があるが，付図から推察すると，この個体は触角の第 3 節が細長く，別種であるように判断される．

生態についてはなにも判明していないが，幼虫は山林の朽ち木中に生息する褐色の針金虫で，老熟

した個体はそこで蛹になり，羽化した新成虫はその場所にとどまって冬を越すものと思われる．これは，寒地系の *Ampedus* 属の種に共通した現象である．

成虫の形態

雄の体長は 9 mm 内外で，上翅が赤褐色をした本属の種のうちでは比較的小形である．体はやや細長くて両側は平行状，背面は膨隆する．体表面は光沢を有し，体毛は黒色，前胸背板は青色の光彩を欠く．頭部，小顎肢，触角，前胸部，小盾板，上翅前縁部，体下面，肢 (付節は暗褐色) などは黒色である．上翅は赤褐色であるが，翅端部は通常，黒褐色を呈する．

頭部の複眼間は弱く膨隆し，前頭部は扁平状で，前頭横隆線の中央部は多少とも鈍く角ばる (Fig. 1 H). 触角は細長く，前胸背板の後角より末端 1.5 節ほど後方へ伸長する．第 2 節は短小で球形状，第 3 節は第 2 節よりやや長くて倒円錐形状，第 2–3 節を合わせたものは第 4 節とほぼ等長である (Fig. 1 E–F). 第 4 節は第 5 節とほぼ等長，第 4 節から強く鋸歯状を呈する．

前胸背板は幅と長さがほぼ等しく，背面からみた両側は後半部平行状，中央部より前方に漸次細まる (Fig. 1 B). 背面は膨隆し，表面は平滑，点刻は小形，まばらでいちように印刻される (Fig. 1 D). 前胸腹板突起は，前肢基節窩を越えてから弱く内方へ湾曲して伸長，末端近くで直角状に印刻される (Fig. 1 G).

小盾板は幅より長く，扁平で舌状である．上翅の条線は明瞭，小形で深い点刻を規則的にそなえる．間室部は弱く膨隆し，小点刻をいちように分布し，不規則な横しわ状を呈するが，しわは顕著ではない．腰板はよく発達，内方部は幅広く，両側は平行状，外縁は途中で鈍く角ばり (↑印)，そこから直線状に外方に細まる (Fig. 1 C).

雄交尾器の形態 (背面) は図示したようで，中央突起は細長く，末端は細まってとがる (末端は下方に湾曲しているため，図では末端が示されていない) (Fig. 1 J–K). 側突起の末端部は正三角形で，外縁は弱く内方へ湾曲，外角部は細まって突出し，数個の不規則な段刻を有する (Fig. 1 L–M).

雌は雄に比してやや大形 (体長 10 mm 内外). 触角はより短かく，末端が前胸背板の後角に達しない．また，触角の第 3 節は，雄のものに比してやや細長く，第 2–3 節を合わせたものは第 4 節よりやや長い (Fig. 1 A). 内部生殖器の交尾嚢 (bursa copulatrix) の袋内にある刺状毛の一部は図示したようで，各刺状毛は細長く，総数 80 本内外を列生する．

あとがき

本種は，G. Lewis (1894) が原記載で明らかにしているように，肢や触角などが黒色～黒褐色，触角の第 3 節が短小で倒円錐形状をしていること，翅端部が黒色をしていることなど，近似種との識別は比較的容易にできるように思われる．その他，前胸背板の外形や表面の点刻の分布などにも特徴がみられる．

筆者が判断したところでは，本種は本州の山岳地帯から北海道にかけて分布する稀少種であり，現在までになされている分布記録についても再検討が必要だと思われる．

なお，ここに図示した標本は，北海道の旭川市嵐山で，佐々木恵一氏によって採集 (1986 年 4 月) された ♂♀ 個体である．

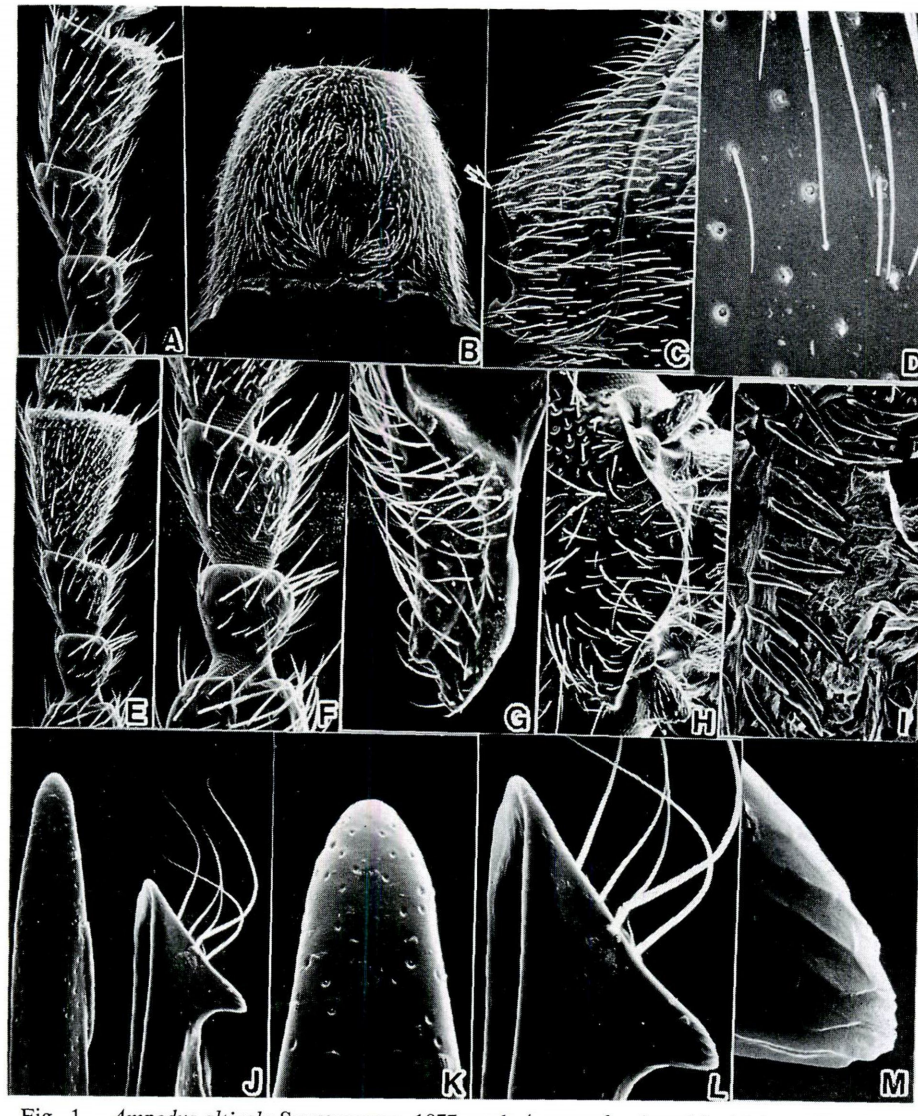

Fig. 1. *Ampedus alticola* SILFVERBERG, 1977, male (except for A and I which are females), Asahikawa City, Hokkaido.——A, 2nd to 4th segments of antenna; B, pronotum in dorsal aspect; C, basal plate; D, some punctures on the disc of pronotum; E, 2nd to 4th segments of antenna; F, 2nd and 3rd segments of antenna, enlarged; G, prosternal process in lateral aspect; H, clypeal margin; I, some spine-like setae in bursa copulatrix; J, male genitalia in dorsal aspect; K, same, median lobe; L, same, apical portion of lateral lobe; M, same, apical outer angle of lateral lobe.

引用文献

平松広吉, 1977. 和歌山県産コメツキムシ科目録, III. 南紀生物, **19** (2): 69-72.
LEWIS, G., 1894. On the Elateridae of Japan. *Annls. Mag. nat. Hist.*, (6), **13**: 26-48.
MIWA, Y., 1934. The fauna of Elateridae in the Japanese Empire. *Dept. Agr. Gov. Res. Inst. Formosa*, (65): 1-289, 8 pls.
大平仁夫, 1973. 日本産コメツキムシ科の知見. *Kontyû, Tokyo*, **41**: 238-240.
SILFVERBERG, H., 1977. Nomenclatoric notes on Coleoptera Polyphaga. *Nat. Ent.*, **57**: 91-94.

Elytra, Tokyo, **16** (2): 136, November 15, 1988

ヘリアカゴミムシダマシを九州で採集

佐藤正孝

Masataka SATÔ: Record of *Eutochia lateralis* (BOHEMAN) (Coleoptera) from Kyushu, Japan

ヘリアカゴミムシダマシ *Eutochia lateralis* (BOHEMAN, 1858) は, 上翅側縁が幅広く暗赤色となる顕著な種で, 東南アジアから台湾, 琉球列島を経て屋久島までの記録がある. 本土からの正確な記録は見当たらないようであるが, 先年, 鹿児島県のウナギ池を訪れた際, 池畔の砂浜で石下から本種を採集することができたので, ここに記録しておきたい.

2 exs., Unagi-ike (ウナギ池), Kagoshima Pref. (鹿児島県), 18. V. 1986, M. SATÔ leg.

参考文献

中條道崇, 1985. ゴミムシダマシ科. 黒沢良彦・久松定成・佐々治寛之 (編著), 原色日本甲虫図鑑, **3**: 295-341. 保育社, 大阪.